|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 質問対象 | 質問内容 | 回答 |
| 附属世田谷小学校 | 「育成を目指す情報活用能力の一覧表」はデータとして公開されていますか？ | 発表中に回答。 ご連絡をいただけたらお送りします。ただし、現状は更新予定のものなので、即時、使用するには絶えない。参考程度に。 |
| 附属世田谷小学校 | 展示コーナーにQRコードを貼り、タブレットですぐにアクセスできるようにする仕組みがすばらしいと思います。画面にはQRコードが２つありましたが、アクセス先は２つでしょうか？　参考サイトへの直接リンクなのか、パスファインダー的なページに飛ぶのか教えてください。 | 参考サイトへの直接のリンクを掲示しています。 掲示前には、内容を確認するとともに、児童用の端末と同様の設定の端末で接続確認などを行っています。 |
| 附属世田谷小学校 | 児童が自主的に学習テーマを設定する上で効果的な促しにはどのような手法がありましたか？  できたら「２０のテーマ作成まで」の流れについて詳しく教えていただけたらうれしいです。もし私が聞き逃していたらすみません。 | 本校は、低学年期より子どもたち自身の思いを大切にし、授業を行っております。教科の内容を子どもたちの生活の中に落とし込んで指導していく、低学年総合という枠組みもその現れです。なので、そもそもとして、自分のやりたいことに対して貪欲に向かっていく児童が多いと言えます。 　　ラボのテーマ（追究の対象）設定の段階においては、子どもたちの興味のあることや、やりたいことをまずはアンケート調査し、教員の作った「対象」や「視点」の枠組みを再検討しました。そうすることで、子ども自身がやりたいと感じていることをやることが可能な研究室を設定しました。 |
| 附属世田谷小学校 | 情報活用能力の一覧表作成はどんなメンバーで、なにを参考に、どのくらいの期間でおつくりになったものでしょうか | 文部科学省の「次世代の教育情報化推進事業」において、IEスクールの指定を受けて取り組んだ際に作成しました。担当分掌である学習資料部（情報教育部＋視聴覚部＋図書部＋α）のメンバーがまずはたたき台を作成し、その後校内に共有し意見をもらい、ブラッシュアップを行いました。半年程度で形にし、その後ブラッシュアップを重ねてきています。 |
| 附属世田谷小学校 | 世田小の学校図書館紹介の動画を拝見していて「おさるのじょーじ」のイラストがドアにあったのですが、著作権などはどうクリアしていますか？本筋の質問でなくてすみません。 | 「楽しくつくる年賀状」に付属していたCD‐ROMで作成したものでした。しかし、但し書きを読むと改変等を行ってはいけないと書かれていました。気が付かずに掲載していましたので、早々に取り外しました。著作権に関してもっと慎重に対処するべきでした。気づかせていただき感謝します。 |
| 附属世田谷小学校 | ラボ活動で児童に情報検索の方法など書籍とインターネットの利用についてどの段階で教えますか？ また、ラボ活動を通して情報活用能力が身についたことはどのようなことでわかりますか？ | 教えること以上に、体験的に学んでいってほしいと考えます。また、教えるタイミングは子どもの文脈に沿って学ぶのが一番良いと考えます。なので、必要性が生じた段階で指導します。情報活用能力のみとりについては、その後の活動の様子（子どもの姿から把握以外にありません。）から、評価します。（パフォーマンス評価） |
| 附属世田谷小学校 | 世田谷小学校の「情報活用能力の一覧表」は興味深いが、ラボとはどのように関わっているのだろうか？また、ラボのテーマによって培われる情報活用能力のスキルが異なりそうだが、この点についてはどうなのか？ | 基本的には、教科学習の中に最低限育成すべき点は落とし込んでいます。なので、違うことについては問題ありません。ラボでもさらなる成長を促すことができるし、気付けるように指導していくことができる。 道徳と同じで、学校の教育活動全体を通じて育成をはかることが望ましいと考えます。 |
| 附属世田谷小学校 | 梅田先生のお話の中にあった、信頼の置けるウェブサイトを選ぶ際の判断基準を教えてください。 | まずは、ウェブサイトの作成者が公共機関であること。自動車に関するコーナーを作るのであれば、自動車関連の企業なども選択肢にも入ってきます。なので、大手企業も入ってきます。一律にこうだという範囲は示しにくいように思います。情報を扱っているサイトであれば、その情報の情報源が明示してあるとともに信用のおけるものであるかどうかも重要であるように考えます。 |
| 附属世田谷小学校 | ラボの時間中、メディアルームへのアクセスはどの程度ありますか?　自由に来館できるのか、来館が重なってしまって大変なことなどはあるか教えていただきたいです | 学年でラボの活動をしている３年生は、集団で来ることが多いです。その際には、対応が大変になることもあります。４年生以上のラボの活動では、事前に資料を借りたり、教員の方で事前に関連書籍を準備しているので、それほど多くの児童が行くことはありません。（授業の見通しを子どもたちがもてているとも捉えられる？）また、来館は制限しておりません。 |
| 附属世田谷中学校 | Ｔｅａｍｓ上の学校図書館とはどのようなものですか？ | 各学年に図書館のチャネルを作ってもらったので、そこから生徒に向けていろいろ発信しています。世中図書館のOPACは、リンクを貼って利用を促しています。アンケートなども、図書館のチャネルから全校生徒に回答してもらうなど、便利に使っています。ただし、どの程度Teams上から発信するかは、まだ検討中です。 |
| 附属世田谷中学校 | 家庭科の支援で200冊もの絵本を用意したというお話があったと思うが、どのような方法で、どのくらいの期間をかけて資料収集をしたのか詳しくお聞きしたい。 | 絵本は、もともと本校にあるものに加え、今回の授業で新たに買った絵本が20冊程あり、100冊ぐらいが本校の蔵書です。それに加えて、附属世田谷小学校から約70冊、世田谷区の公共図書館から30冊ぐらいをお借りしました。本校の絵本に関しては、1学期から少しずつあってもいい絵本を選んでいましたが、世田谷小学校から借りたのは、授業をする2週間前ぐらいで、公共図書館は不足のものを揃えるために、授業の直前でした。（村上） |
| 附属世田谷中学校 | ハブの考察、面白かったです。具体的な家庭科の授業についての質問ですが、国語科との連携は年度当初から計画されていたのでしょうか。それとも家庭科の授業の流れの中で、国語科教員が臨機応変に対応されたのでしょうか。何にしても学校図書館も含め、日頃から教員間の温かなつながりが感じられました。 | 絵本を用いた連携は年度当初から計画をしていました。そのなかで外部の方（保育園）からのお返事を受けて家庭科の授業の流れに変更があり、「世中図書館会議」のなかで具体的な連携の方法を検討しました。国語科では他者意識は中学校3年間を通じて意識して欲しい事柄としていたことでした（1年時から折に触れ提示しているキーワードです）。また、「音読・朗読」等読むことによる表現活動は計画していましたが、対象となるものを今回の連携に合わせて「読み聞かせ」に変更しました。（渡邉） |
| 附属世田谷中学校 | 世田谷小学校のような情報活用能力育成の表は中学校にもありますか？その場合小学校とのすり合わせというか連携はありますか？ | 今のところ学校独自の形でまとめているものはありません。 |
| 附属世田谷中学校 | 学校図書館の位置づけとしての掲示とは？ 「コード化する」「コードの提供」について、具体的な例などがあれば、ご説明いただけるとありがたいです。 | 学校図書館の位置づけについて、授業連携の場面において「コード化する」「コードの提供」という形で示したことを一つの成果として捉えています。これはこれまでの取り組みに鑑みても言えることと考えます。だからこそ、これまで蓄積した事例に照らしてみることや今後の取り組みについて位置づけから整理してみることを通じて、この視点の改善や効果の検証・提示を行っていければと考えます。あわせて、「『ハブ』としての機能を高めていく」ということについても考えを進めていければと思います。 　今回の授業連携を例にすると、絵本という共通のコードを用いて、それぞれの特性や目標に照らして教科の授業という形で表現されています（様式・モード）。この取り組みの中で、学校図書館は「そこにあるもの」として無意識に活用されています。ここでの学校図書館の特徴を見てみると、「学校図書館が」という特定のモードを有さず（授業支援の場面に限定して）絵本というコードに関わる要素に紐付くものとして活用されています。「学校図書館」特有のモードにするのではなく、良い意味で他のモードの中で用いられる一機能となり効果を発揮していくこと「コード化」として捉えています。コード化やコード提供という視点から見ていくことで、ハブとして「機能」することに着目することが期待できます。（渡邉）  　　今回の実践事例では、家庭科と国語科に同じ「絵本」を提供している。しかし、使われ方はそれぞれの教科の特性と授業のねらいに応じたものとなっている。教科での絵本の使われ方をモード（様式）と考えることができる。そして、提供した素材としての「絵本」は、総体としての「絵本」のもつ普遍性や個々の絵本が持つ特性の部分が使われている。つまり授業支援の際は、資料はコード化されて提供されると言えるのではないだろうか。 もちろん、学校図書館を運営するなかで「絵本」は学校図書館のモードを持ち、それぞれの学校司書が、生徒への働きかけを行っているはずである。絵本に限らず、このようにコード化されて資料が提供されるからこそ、教員は自由度の高い授業デザインが可能となるのではないだろうか。このような考え方を、もう少しわかりやすく提示することが今後の課題と考える。　（村上） |
| 附属国際中等教育学校 | 課題の解決という点で、技術科でブックスタンド以外で学校図書館を活用できそうな内容はありますか？　また情報など他の分野で学校図書館を活用する構想はありますか？ | 今回は1年生だったので，展示型ブックスタンドの設計・製作といった材料と加工の技術の内容でしたが，例えば，2年生であれば，エネルギー変換の技術の内容で，照明器具を検討することが考えられます。本を読む際に，どのような照明器具が適切なのか検討し，実際に設計・製作までいけるとよいと思います。また，生物育成の技術の内容で，草花の栽培を行います。学校図書館の館内に，観賞用の草花を設置することを想定し，栽培してみるのもおもしろいかもしれません。3年生であれば，情報の技術の内容がありますが，実際（実物）の問題解決は難しいと思います。しかし，計測・制御の技術を活用し，学校図書館の問題をモデルで解決することは可能です。問題解決の場面を学校図書館の中に設定すれば，生徒は計測・制御の技術で解決できる問題を発見し，解決に至ると考えます。 |
| 高橋奈菜子氏 | GAKUMOPACはとても利便性が高いツールですね。特にGIGAスクール端末から資料を探すことができるのは学びを深めるのに役立つと思われます。相互利用について、検索の結果に出てきた他校の資料を取り寄せてもらうことはできるのでしょうか？ | 附属学校間は、授業利用に限り相互貸借も可としています。学校司書の間でメールにより依頼を受付け、「連絡便」で送付しています。 　　大学図書館との間は、利用者の直接の来館も可能ですが、学校図書館を介して申込みすることになっています。同じく、連絡便の利用することとしており、各学校図書館1ヶ月24冊借りることができます。（高橋） |
| 高橋奈菜子氏 | 本の相互貸借について 各校を巡回するような配送車等を利用されているかどうか等、本の物流方法について詳しく教えてください。 | 各学校を巡回する配送車「連絡便」を利用して送付しています。頻度は月3～５回です。（高橋） |